

## 会派新政クラブ 行政視察報告書

[視察項目] バスケットを核とした地域振興について

[報告者] 鈴木 正一

[訪問日時] 令和6年11月7日(火) 13時30から15時

[訪問場所] 秋田県能代市

[対応者] 能代市議会 議長 安井和則

能代市議会事務局 局長補佐 佐藤 秀太

能代市議会事務局 主任 伊藤和希

企画部市民活力推進課 バスケットの街づくり推進担当 諸澤 駿

能代バスケットミュージアム 石井



[視察目的]

- ・館山市においてもスポーツを通して地域振興に取り組んでいるので、先進事例を視察しようと考えました。

[能代市概要]

- ・所在地 秋田県能代市上町1番3号 面積 426,950 km<sup>2</sup>
- ・人口 47,890人、世帯 23,964世帯(令和6年)
- ・議員 20人



## [バスケットの街づくり事業に至った経緯]

- ① 能代市は昭和 42 年度の埼玉国体で全国初制覇を成し遂げて以来、能代工業高校(現 能代科学技術高校)バスケットボール部は 30 回を超える全国優勝を勝ち取り全国的な知名度が高まりました。バスケットの街能代は、平成 19 年度を最後に優勝回数 58 回も数えるこの能代工業高校バスケットボール部の強さに由来しています。
- ② 平成元年度から、バスケットの街づくり事業に取り組んでおり、バスケットボールを核にあらゆるスポーツの振興を図り、国の「ふるさと創生事業」を契機に、「誇りと愛着の持てるふるさとの街づくり」を目指して「バスケットの町づくり事業」をスタートしました。



## [バスケットの街づくり事業主な取組]

- ① バスケットの環境整備
  - ・公園等へのバスケットリングの設置(平成元年度から)を進めています。
  - ・能代市総合体育館の建設(平成 3 から 5 年度)
- ② バスケットの普及・底辺拡大 (ミニバス交流大会の開催)
- ③ バスケットイベントの開催 (能代カップ開催補助金)
- ④ バスケットの街のシンボル、バスケットの街のイメージアップ
  - ・バスケットリング型の照明灯の設置

#### [新バスケの街のしろ推進計画の策定]

- ・事業に取り組んで10数年が経過し、「さらに継続・拡大」させていくことを目的にして平成15年度から、「新バスケの街のしろ推進計画」をスタートさせ、「みんなのチカラで”きらりと光るバスケの街」を基本姿勢に、競技人口の拡大や能代カップ等への支援、教室・大会の開催や情報発信などの取組を進めてきました。市民のまちづくり懇談会、まちづくり市民講座の開催、スポーツによるまちづくりシンポジウムの開催等々を経て策定しました。(計画期間平成15から23年度の10年間)

#### [バスケの街づくり推進計画策定]

- ・平成24年度から、新たに推進計画「能代市バスケの街づくり推進計画」を策定しました。バスケをきっかけとして、街に活気が生まれ、街なかのにぎわいを創出し能代から全国に向けて元気を発信できるような街をめざしたい、という思いを、街づくりのビジョン「バスケでみんなが元気になる街」に込めて地域振興に取り組んできました。(計画期間平成24年度から平成33年度10年間)

- ・取組の内容として

- ① 空き店舗を活用して〔能代バスケミュージアムを開設〕平成24年5月～令和5年度は、年間来館数 16,640人を突破 インバウンドの旅

行者も増加し、1月～5月まではインバウンドの伸び率全国4位とな

り、国内外から観光施設としての利用が増加しました。

- ② バスケットの街づくり市民チャレンジ事業補助金の増設
- ③ バスケットの街づくりの推進委員会の設置



10年後の人づくり、実践重視の視点で組織し、バスケットの街づくり推進計画の点検と推進を目的に設置 しました。(令和6年度～7年度の委員数12人)

- ④ 能代科学技術高校への支援と取組

バスケット部への玄米支援 (市とJA白神共同で寮生への支援)

- ⑤ 市と秋田ノーザンハピネッツとの連携・協力に関する協定締結

[これまでの事業効果とそこから見えた課題]

・様々な取組を実施したことで、スポーツで街づくりを進めたい自治体から、先進的な自治体として挙げられることが多くなりました。また、平成元年から約30年間バスケットの街づくり事業を行い、市の特色を活かした街づくりを推進したことで、バスケットの街能代が定着しました。

- ① 平成24年度から始まった能代市バスケットの街づくり推進計画は、10年計画の長期で計画されたため、様々な状況の変化に対応できず、一部の取組が形骸化してしまうなど、継続して事業を行うことが出来ませんでした。

② バスケットの街能代を誇り思う市民が全体の半分にも満たさない数値が示され、今後のバスケットの街づくりを推進する担い手を確保する必要があると考えられました。

令和5年度からの「第2次能代市バスケットの街づくり推進計画」では、前計画の検証を行い、新たに、「バスケットの街で多様な関わりが生まれること」「バスケットの街の魅力に触れられること」、「バスケットの街を未来につなげること」を目標として新たな街づくりに取り組んでいます。



#### [所見]

バスケットを核とした地域振興を30年余り続けることは大変だったと思います。

能代工業高校も素晴らしい成績を築いてきていましたが、能代市も第2次能代市バスケットの街づくり推進計画がなければ前に進みませんでした。

館山でも剣道が強い時もありましたが、顧問がいなくなると、成績が下がっ



てしまう傾向がありました。館山市が、スポーツ観光を目的にスポーツによるまちづくりを目指すならば、旧館山中学の跡地を有効利用して、合宿所として活用していくことが最良の方策であると思います。